

# 九州のなかま

2009 - 19

春闘情報: NO. 9

発行日 : 2010年4月27日(火)

発行者 : 生協労連 九州地連

## 沖縄県民大会に9万人 米軍基地はいらい！！

10万人を目標に望んだ「4.25県民大会」、参加する人も参加できない人も、県内移設を検討する政府に警告するカラーの『黄色』を身につけ、アピールしました。

コープおきなわ労組も大型バスで会場へ向かいましたが、通常30～40分で行ける場所なのに、何と4時間もかかり、残念ながら大会終了後の到着となってしまいました。しかし、大渋滞の中、「間に合わない！」そうわかっていてもUターンする車は全くなく、私達のバスの後ろにも何台ものバス、乗用車が並び、押し寄せる人・人・人・・・「基地はいらい！」みんなの強い思いを感じました。(コープおきなわ労組:下地恵子)



## 生協労連九州地連「生協研」

### 「生活協同組合について考える」を開催!

4月25日(日)、どこまでも澄みきった青空の下、九州各地から37人のなかまがエフコープ篠栗研修センターに集いました。午前中は、コープかごしま顧問の坂元義範さん(コープ九州事業連合前理事長)による「生活協同組合について考える」をテーマに学習講演がありました。講演では、「レイドロウ報告」の3つの危機(信頼の危機、経営の危機、思想上の危機)から始まり、次に「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」では、「定義、価値、原則」を学び、第87回国際協同組合デーに向けたICAメッセージと続き、「ロッチデールの誕生」では、「生活協同組合は何故、何のために創設されたのか」を再認識した参加者も多かったのではないのでしょうか。ロッチデールの原則である「目方や尺度はたっぷり計る。剰余は購買高に応じて組合員に分ける。剰余はそれを生み出した者に分配すべし」という認識に立つ。組合員の進歩と能力向上のために、全剰余2.5%を教育にあてる。」これが「生協らしさ」だと...。「『生活協同組合が何なのか』、を知る人達によって生協は発展する。共同購入(班)を利用する事によって組合員と接して生協を育ててきた。個配も組合員と接することが大事だ。人間は働くことによって頭脳がつくれ、理性が生まれる。人間らしく働くこと、ディーセントワークの実現、それには教育が重要だ」。最後に生協職員について、「生協で働いている者は、全て生協がわかって組合員と接しなければならない。生協は現場が最も大切である。現場で全てが成り立っている。生協で働いている者は、組合員に対してはプロであるという気持ちで接しなければならない。自分がどこで働いているのか自覚が大事。」と述べられました。



午後からは分科会、分散会に分かれてさらに学習や交流を深めました。分科会では、コープ九州事業連合常務理事の中間良之さんより「コープ九州2010～2012年度アクションプログラム」についての説明を受け、意見交換を行ないました。また分散会では正規、パートに分かれて坂元さんの講演を聞いてのフリートークを行ないました。

お願い: 2010年春闘関連の取組み 他の情報を地連まで FAX: 092-947-9193